

道路におけるカラー化による効果について

○目的

- ・視環境の改善による抑止力の強化
- ・歩道部の確保による歩行者保護

※【全国道路標識標示業協会東京都協会 路面のカラー化についての実例集より】

○具体的な効果（他都市の取組み事例）

※【国土交通省 HP 生活道路対策エリアの取組（具体事例）より】

- ・弘前市城西地区の事例

対策内容：30 km/h 以上で走行する速度超過車両が多いため、グリーンラインを設置

	30 km/h 超過割合	平均速度
対策前	51%	24.4 km/h
対策後	37%	23.1 km/h

- ・熊本市黒髪地区の事例

対策内容：抜け道利用が多い小学校付近の区間を対象に、速度抑制対策として、グリーンラインを設置

	30 km/h 超過割合	平均速度
対策前	14.1%	16.4 km/h
対策後	6.0%	14.3 km/h

- ・都城市川東小周辺地区の事例

対策内容：地区内では通過交通が多く、通学路に指定されている箇所において車両と歩行者の接触等の事故リスクが高いため、交通安全対策を実施（グリーンライン、外側線、交差点マーク）

	30 km/h 超過割合	平均速度
対策前	38.4%	24.6 km/h
対策後	27.0%	20.4 km/h

路側帯や信号のない交差点をカラーで強調することで視認性が増すことにより、ドライバーに歩行空間の存在を認識させ、注意を喚起し、通行速度の抑制を図ることができる。